

第1回成田市宿泊税に関する有識者懇談会 会議録

1 日 時 令和6年11月15日（金）午前10時～午前11時52分

2 場 所 成田市役所 6階 中会議室

3 出席者

（委員）

星野 泉会長、影山 美佐子副会長、久米 剛委員、林 隆浩委員、
栗田 壮一郎委員、小川 喜章委員

（成田市）

財政部 篠塚部長

（事務局）

財政課：平野課長、安西課長補佐、越川係長、小林係長

市民税課：小竹課長、村上係長

観光プロモーション課：窪田課長、黄野課長補佐

4 傍聴者 10名

5 会議次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 委員及び出席職員紹介
4. 財政部長あいさつ
5. 会長及び副会長選出
6. 議事
 - (1) 宿泊税について
 - ①成田市の情勢について
 - ②宿泊税について
 - ③先行自治体における宿泊税の課税要件
 - ④先行自治体における宿泊税の使途
 - ⑤成田市における宿泊税の課税要件（案）
 - ⑥成田市における宿泊税の使途（案）
7. その他
8. 閉会

●5. 会長及び副会長選出

委員の互選により会長に星野委員、副会長に影山委員が選出される。

●6. 議事 (1) 宿泊税について

(安西財政課長補佐)

それでは、設置要綱第6条第1項の規定によりまして、会議の議長は、会長にお願いすることになっておりますので、星野会長、よろしくお願いいたします。

(星野会長)

それでは、会議に入らせていただきます。第1回目の会議ということもありますので、「宿泊税について」、事務局から説明をいただきたいと思います。

(安西財政課長補佐)

それでは、わたくしから、「宿泊税について」、お手元の資料に基づきまして、ご説明させていただきます。(以下、説明)

(星野会長)

成田市を取り巻く環境のお話とアンケート、また、宿泊税の制度のお話等を伺いました。

特に県の宿泊税に上乗せをするということになりますので、その必要性妥当性と観光振興財源のあり方、それから宿泊税の使途、こういったところに関して委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。

それでは、まず久米委員からお願いできますでしょうか。

(久米委員)

最初にまず市の皆さん方に質問ですが、県と市で二重に宿泊税を導入することになる。

形式としては福岡県と福岡市のように、市も徴収する場合は、県の宿泊税から市分の宿泊税を差し引いて、総額は変わらないとする制度ですけれども、この方向性になる可能性はもう千葉県においては無いのでしょうか、それともまだこれはこれからの協議なのでしょうか。

(平野財政課長)

先日の千葉県の会議では報告書として取りまとめた内容の中では、一律150円という方針が示されておりますので、今後全く可能性がないということではないと思いますが、変わらないのかなと思っています。成田市としては、そこに上

乗せをするという形になってくるかと思います。

(久米委員)

二つほどちょっと感じるころがありまして、先ほどご説明にもありましたけれども県が宿泊税 45 億円の原資を持って、観光施策の原資に充てると言っておりますけど、実際成田市に波及してくる効果がどこまでかは未知数でもあるので、あてにはできないとおっしゃっていましたよね。ということは裏を返すとその分は 200 円お客様から徴収するけれども、実際に泊まっているお客様に還元される方向にあまり使われる可能性が薄いということにもなってくるので、それに対して市独自で行うものは直接市にお泊まりになったお客様への何らかの利便性が図られることに活用していける可能性が高くなる。そういう点でいくと 200 円に内包した形になる方がいいとホテル業界としては感じているころがあります。

もしその上乘せする形でやっていくと、結局はお客様への料金の値上げという形に結果的にはなりますので、この地域の宿泊事業者は一律に宿泊税がかかってくるのでそれぞれの影響度合いとしては単価により変わってくるものの、地域中での条件は同じなのです。

ただディスティネーションとして競争力が落ちるということは否めないです。

特に一般の個人のお客様は、例えば 1 万円以上の宿泊をする際の 100 円 150 円ということに関しては大きな差はないかもしれませんが、民泊系を含む 1 泊 5000 円前後ぐらいの値決めをしているところにはとっても大きなインパクトが出てくる。

それから修学旅行生といった学生団体等も同じ条件がありますので、こういった層のゲストはもしかすると、この宿泊税の導入されたところは、候補先から外していくということが起きないとは限らないと思います。

そういった意味でもできる限り二重の徴収ではなく、総額が県の施策に収まるように調整いただけないものかなってというのが今考えています。

(星野会長)

お伺いしたいのですが、市と県の 2 段階の課税にすること、それから免税点を定めた場合にホテルさんの方の負担については、一律の方が楽なのでしょうか。

(久米委員)

事務手続き上は変わらないと思います。

参考まで申し上げますと、一律というのは非常に望ましいと思っております

が、ちょうど私は金沢市が導入する際に金沢のホテルの方へ従事しておりまして、まさにこれを体験しました。

金沢市は2万円以上だと500円、2万円以下だと200円となっておりまして、今でもまだ続けているのですが、これが非常に事業者にとってはネックでして、例えば連泊で金曜と土曜の連泊だとすると、金曜日は2万円以下、土曜日は2万円以上となると、一つの予約で二つの税率の関わる対応ができるように、システムを改修しなければならなくて、非常に莫大なお金がかかったという経験があります。ですので、これは一律化っていうのは非常に望ましいと考えております。

(星野会長)

ありがとうございました。続きまして林委員お願いいたします。

(林委員)

先ほど成田市の方から財務情勢等の説明がありまして、それについての理解は個人的にしております。

ただ今後、導入にあたっては、宿泊事業者へのヒアリング、アンケート等で事前にそういった場を設けていただきたい。

成田市では税率は決まってないですし、使い道についても今後いろんな意見が出ると思いますので、経営者にとっては宿泊税の金額というのは非常に大事な部分なものですから、事前のヒアリング等を行っていただきたいということが一つです。

また、観光振興について、観光は裾野が広いので、解釈の仕方によっては使途が大幅に広がりかねない、いろんなものに使われてしまうのではないかっていう懸念もあります。

我々宿泊業が徴収していくものになるので、県でも取り組みの方向性という中に、観光人材の確保育成定着といったものがあるように、ここに力を入れていただきたい。

人手不足というのは、現代の問題で様々な業種であると思うのですが、我々宿泊業にとっても、やはり人材確保というのは非常に難しく、コロナ禍で辞められた方がまた戻ってくるかっていうところでもなかなか厳しくて、そういった点においても、やはり観光人材の確保ということは、県の方からの支援もあるとは思いますが、成田市独自の使途でも力を入れていただければと思っております。

(星野会長)

ありがとうございました。続きまして栗田委員お願いいたします。

(栗田委員)

将来的な税収の予想を見ると、取り組んでいくべきものなのだろうなということは理解できると思いますが、やはり用途を明確にするということが重要ではないかと思います。

商工会議所も商業・工業・農業の振興を推進していますけど、空港の機能強化もあり今注目しているのはやはり観光業ということになりますので、この部分について誘致というか受け入れ態勢を整えるためにも、何かしらの財源確保は必要になってくると思います。

一方で、旅行者とか宿泊者の意見として、こういった税金が新設されていることに対してどう思うかというレポートがあったりすればいいのかなと思います。

参考までに成田に来る修学旅行生はどれぐらいいるのかということについて、捉えていらっしゃるのか、教えていただければと思います。わかる範囲で結構です。

(安西財政課長補佐)

県の方で取りまとめをしております、千葉県観光入込調査報告書というものがあまして、その資料においては、コロナ禍前の令和元年の状況で言いますと、成田市の修学旅行客数は 7,721 人ですが、これがコロナ禍でやはり落ち込みまして、令和 4 年ですと 2,150 人まで減少しているような状況というところです。

ちなみに、県内で一番多いのが浦安市で、令和元年には約 40 万人となっており、ディズニーランドの関係かなとは思っておりますが、令和 4 年には約 23 万 7,000 人となっており、かなり突出した数となっております。

(星野会長)

ありがとうございました。続きまして小川委員お願いいたします。

(小川委員)

特別徴収義務者が宿泊税を納入するのが、県と市のどちらになるかによって違ってくると思うのですが、やっぱり免税点をもうちょっと考えていただければなと思います。

それと修学旅行については、京都市はあるようで、成田市は確かに修学旅行の数は少ないですけども、今は LCC 就航地ということもあって、成田に修学旅行を呼べないかなと思うということでいろんな作業をしております。

そういうこともあるので、修学旅行を外していただけると助かります。

それともう一つは目的です。林委員もおっしゃいましたが、目的をもっと明確にして、いっぱい目的を書くのではなく、これとこれに使うというような形にし

てもらった方が説明しやすいのかなと思います。

これだけいっぱい並べられてしまうと、何に使っているかはっきりと分からないので明確にしていいただければと思います。

(星野会長)

ありがとうございました。続きまして副会長影山先生お願いいたします。

(影山副会長)

いくつか教えていただきたいことがあるのですが、一つ目は成田市さんの財政力指数は高いですね。

16 ページにその資料を付けていただいているのですが、その中で積立基金の現在高が大分減っていることがあると思うのですが、どういう分析なのかなっているのが疑問に思いました。

(平野財政課長)

具体的に財政調整基金を初めとする基金の残高ですが、コロナ前までは順調に確保していたのですが、コロナ禍に入って様々な支援策に活用したということもあります。

それから物価高対策や公共施設の老朽化対策をしなければならない中で、税収がコロナ後となっても回復がゆるやかなものですから、収入と支出のバランスが追いつかない部分もございまして、一時的に財政調整基金繰入の額が令和 6 年度 7 年度あたりに多くなってくるといった予測によって、若干減少傾向にあるというところでございます。

こちらの資料については計画的なところもございまして、この計画を踏まえて、残高は十分な額になるような確保策をこれから講じていきたいと考えております。

(影山副会長)

それこそ成田空港の新しい滑走路の計画もあるというふうに聞いておりますし、マイナス部分ではなくて、これからさらにその企業誘致とかもされるでしょうし、プラスの面もあると思うので、果たしてどんなふうになるのかなということをおもいましたので、お聞きしました。

実際に観光予算についても順調に増やしておられて、今大体 6 億から 7 億ぐらいと見せていただいたんですが、この宿泊税を入れることによって、またさらに全体の財源が増えると思うんですけれども、今の計画だと全部一緒にして、今やってることも含めて使ってしまうというようなイメージを持ったんですが、

それでよろしいですか。

（平野財政課長）

観光予算額としては、6億6000万円ぐらいとなっております。

実際宿泊税を導入するにあたっての金額の設定等を踏まえますと、やはり今後の新しい観光施策も含めての試算をするべきだと考えておりますが、新たな施策についてはこれから検討すべき事項と考えております。

ただ、今取り組んでいる事業につきましても、宿泊税を充当できれば更なる充実が図れるのではないかとこのところがありますので、完全に新しい観光施策と、現在取り組んでいる施策とバランスよく当てさせていただければと考えております。

（影山副会長）

ありがとうございます。私も先ほどから意見が出ていたように、やっぱり用途をはっきりさせることは大事だと思っていて、増えてきている観光予算の一部になってしまっていて見えなくなってしまうと、実際に徴収されるホテルさんとか旅館さんから見たときに、どこに使われているのか分からないっていうことが起こるのかなと思いました。

観光は裾野が広い産業なので、様々なところに使われることは必要なのだと思いますが、いろんなところで情報をヒアリングされると良いのかなと感じます。

それから、実際にコロナのときにお客様が一気に減った状況がありまして、6ページにその宿泊状況のグラフがありますが、成田市さんは県内でも他の市町村と比べると宿泊の率が高いということがありますよね。

さらに一気に減ったにも関わらず、これだけの方が宿泊しているのは、これは例えば空港関係のクルーの方とか、観光客以外の方っていうのも多いのかなと思いました。

そういう方もみんなこの宿泊税をかけていくっていうことで理解してよろしいでしょうか。

（平野財政課長）

千葉県は宿泊税に上乗せをするという手法での課税となりますと、千葉県の課税方法に準じて、できるだけ同じ形のスキームの方が事業者さんにとってもわかりやすい中で、県も空港関係のクルーの方に関して例外とはしておりますので、同じように徴収をさせていただくということになります。

(影山副会長)

わかりました。

観光人材については、私の関係している教育分野でも、やっぱり若い人たちが観光に関するような仕事に就いていくことはとても大事なことだと思っているので、そういうところに宿泊税を充てていただきたいなと感じております。

(星野会長)

ありがとうございました。

整理いたしますと、まず一つは目的の問題で、はっきりした方が良いということ、それから、二重課税になるので、その控除を千葉県にもっと強く要求できないのかどうかという問題と、それから修学旅行をどうするか。

また、税率段階をどうするかということに関して、煩雑性が出てくるのではないということ、それから免税点においても、業者の方に対応するためのコストの問題等が出てくるのではないかという意見でした。

税率段階については、京都は 5 万円以上の税率を設定していて、これはこれで興味に値しますが、京都の場合 5 万円以上の宿泊施設がおそらくたくさんあるでしょうから、地域的なもので違うということがあると思います。

千葉県さんは一律で設定しているので、その関連でいうと、あまり税率を複雑にするのはどうかというようなことを感じました。

目的の問題で言うと、入湯税と比べるとどうなのでしょう、入湯税と比べるとかなり広くなっているような感じがしますが、入湯税も目的がかなり広くなっているとは思いますが。

(平野財政課長)

入湯税よりは広い範囲になっていると思います。

(星野会長)

宿泊税の金額がそんなに大きくは取れないとなると、ものすごい金額が集まるわけでもないのかもしれないので、どの程度のことができるのかということも検討する必要があるのかなというふうに感じました。

それ以外に、よりここを強調したいというようなお話ございましたら、ご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか、

(星野会長)

千葉県の意向は動かない感じですか。

もう一つは、福岡県だけが採用している控除式の税率については、どういう経緯があったのかということについて、可能であれば教えていただきたいと思います。同じ時期ってことはどちらかが先に発議したってということですかね。

（安西財政課長補佐）

うろ覚えではございますが、福岡市は福岡市で独自で条例を制定して進めていた中で、福岡県の方が導入するということで、揉めたという経緯があったかと思えます。

結果的には北九州市さんなんかも入ってきた中で、三者で協議をして調整をした結果がこういうふうに着いたということを聞いております。

（星野会長）

北九州は一律で、福岡は2万円超ということですね。

その辺のところも、もしわかりましたら次の会議までに教えていただけたらと思います。

（影山副会長）

システム改修に係る補助金っていうのを考えておられるということでしたが、改修にかかる費用はどのくらいかかるのでしょうか。

（安西財政課長補佐）

他市の検討会での議論の情報ですけど、やはり宿泊事業者の規模だとか、チェーン店かどうか、そういったところで様々のようです。

何百万何千万というようなところもあれば、そもそもかからない、そもそもシステムを入れてないというような形のところもございますので、一律で大体このくらいっていうのはなかなか難しいところかなと思っております。

（星野会長）

はい、ありがとうございます。あとはいかがでしょうか。

最初、東京都が石原知事のもとで宿泊税を導入しました。

おそらくこの発想は料理飲食等消費税がなくなってから随分時間が経って、一部復活の様な形で、1万円が免税点だからいいだろうということだったと思うのですが、最初は地方からの批判もありました。これが全国的に広がってきているところが今日のところかと思えます。

(久米委員)

一般論として今徴収をしている地方自治体は、基本的には観光として非常に人気のディステーションなので、宿泊税を導入したからといってゲストが減るという可能性はほとんどないだろうという見込みのもと導入していると思うんですね。

ひるがえって成田市がどうであるかっていうこともありますが、基本的には個人のお客様に関しては宿泊税の有無で行き先を考えるっていうのはあまりないとは思っております。

単純にちょっと値上がっているねというに過ぎないという印象だと思うんですけども、ただ、先ほど皆さんから出たとおり、せっかく取るのであれば、より成田を選ばれることに繋がるような、場所としての魅力アップに繋がる施策にこの宿泊税の使途をもっていてもらいたいと思います。

(星野会長)

今日初めて皆さんにお会いして、皆さんと議論を始めたばかりになりますが、いろいろな論点などから、原案に近いようなところを作るのであれば、使い道の問題が一つの議論になると思います。

また、福岡と北九州っていう政令指定都市があって、この2市では福岡県は50円しか取れないということになると、おそらく福岡県はこの二つの市にはほぼお金を出さないということになるのかなという感じがするので、その辺のところもどうなのかと思います。

あるいはもし現在のプランで控除がないのであれば、いくらにするとか、控除がなかなかお願いしても難しい場合には、それぞれの市でどういう割合で配分するのかは基準があるのでしょうか、例えば人口比で割るとか、商業統計で割るとか何かあるのでしょうか。。

(安西財政課長補佐)

今県においても市町村や宿泊事業者に対しての説明会をやりまして、その中でそういったところのアンケートも取っているところなので、制度としてまだ決まっているわけではないです。

それぞれ市町村としてもそのアンケートの中で、立場がやはりそれぞれ違うことから、出てくる意見も違うと思いますので、そういったところも踏まえて千葉県としては検討して固めていくのかなと思っております。

ですので、今時点だと大体成田はいくらもらえるのかっていうところは何も示されていないというところでございます。

(星野会長)

想像に過ぎませんが、あんまりそんな精緻な制度設計じゃないような気がするので、もし成田が観光に関して何か重要なことをきっちりとやろうとするのであれば、自分のところでというのはそれなりの意味があるのかなと思ひまして、やはり目的の件から重要な論点になるのかというふうに思います。

(影山副会長)

東京とか大阪は税率について東京だったら 1 万円以上とか、大阪だったら 7,000 円以上だと思いますが、実際に修学旅行生は安いところに行くので、免税点について、外国大使等を除くということにはなっていますが、実際は修学旅行生も除かれていると考えて良いのでしょうか。

(安西財政課長補佐)

1 泊当たりいくらになるかの判断なので、こういった運用しているのかは存じ上げません。申し訳ございません。

(星野会長)

難しいところですね。

成田に宿泊して、修学旅行生が飛行機に乗ってどっか行くっていうケースとか成田そのものに来るケースとか、結構贅沢な修学旅行だったら、それは負担してもいいじゃないかっていう議論にもなるし、修学旅行だから気の毒っていうことでもないのかなというような、悩んだ結果として免税点にしたりしなかったりということなのではないでしょうか。

おそらく長崎あたりはやっぱ被爆を体験した都市であるというようなことで、勉強してもらおうという意図があったり、京都は京都文化というような観点があるのかもしれませんが、免税点の問題は、システムの問題と、減税の必要性から議論が出てきてしまうのかなと思います。

あとちょっと思いつきですけど、最近空港リムジンバスが減便になって、私の家の近くからはほぼ無くなって、アクセスがしんどくなってきて、それは成田市さんにとってはマイナスのことなのかもしれないけど、僕は海外旅行の際前泊しましたので、それは成田滞在という意味ではプラスの効果もあったりなかったりすることです。

(久米委員)

バスの件についてちょっと状況をお伝えしておきますと、昨年 8 月末、令和 5

年の 8 月に国土交通省から示された指針に基づいた、ドライバーの働き方改革があります。

それで非常にバスドライバーの給与体系とかあるいは労働時間体系が根本的に変えられまして、結果としてバス運賃が約 3 倍になっています。

ホテルから空港までの片道送りがかつては 1 万円以下だったところ、今 3 万円になっておりまして、これが非常にネックになっています。

先ほどのこのアンケートの中でも、例えばイオンモールとかは非常に認知度が高くて、訪日して泊まっているお客さんからも行きたいという声はたくさんありますけども、今は各ホテルが自社で手配しているシャトルバスのうち一部を回送で駅・イオンモールを経由しているという自助努力でやっているものの、限界があって、1 時間に 1 本入れてしまうと、日中の間にしか出来ないというところで、お客様からはもっと便はないのかという声が上がっています。

そういった両方の面で値上がりしてしまっていて、思うように配車できないバスですが、もとよりこれはもう絶対赤字にはなるのですが、宿泊税を取った後に分けて、その補填をしてもらってダイヤをもう少し増やすとか、前にあった市内の観光拠点とホテルとイオンを巡るバスを新たに新設してそこを面倒見てもらうとか、そういったものには繋がるかなという感じはします。

(星野会長)

ありがとうございます。バス便というのは、今後運転手不足の観点から長期的に見て、なかなか厳しい分野なのかなと思ったりします。

他いかがでしょうか？それと目的の件が結構大事で、また議論する機会があったらいいと思います。

あと何回でこの議論を進める感じでしょうか。

(平野財政課長)

具体的には未定ですが、今年度中は後 2 回ほどの開催を出来るように考えております。

(林委員)

先ほどの質問になってしまうのですが、事前の事業者への説明っていうのは、今後一応予定はしていますか。直接事業者からの質問等の場を設けるのでしょうか。

(平野財政課長)

先月から今月にかけて、千葉県さんの方で実施をされている事業者説明会が

各地で執り行われていたと思うのですが、成田市として独自に上乗せ等をするということの方針が固まれば、事前のアンケートとかも含めて事業者説明会の開催も検討していければなと思っております。

(林委員)

組合の方からも事前に説明はないのかって話が出てますので、そういったことをしていただければと思います。

(小川委員)

これだけの財政力指数を持っている成田市ですので、この宿泊税の必要性もうちよっとな具体的に示していただけると説明がしやすくなるので、よろしくお願いします。

(星野会長)

大事なところだと思いますので、使い道がバスの話もありましたし、使い道としてどういうものが重要だというようなご意見もいただければ、より議論が深まるかと思うのでよろしくお願い申し上げます。

その他なければ事務局からのお話に戻したいと思います。

(安西財政課長補佐)

そうしましたら事務局の方から、今後の予定についてご説明させていただきますと思います。

先ほど申し上げました通り、できれば今年度中にあと2回、今日いただいたご意見などを次の会議の中で調べてフィードバックするかとか、議論としてもうちよっとな要点を絞って突き詰めたものをさせていただきたいということで、できれば今年度あと2回開催したいと考えております。

その進捗に応じて、来年度以降の会議ということになると思いますが、千葉県とも協議をしていく必要があると思っておりますので、協議の進捗があれば、会議の中で報告しながら議論を進めていければということで考えております。

具体的な日程につきまして第2回目はできれば1月の中旬ぐらいから2月上旬ぐらいまでの開催としたいと考えておりますが、具体的な日程調整はまた今後させていただきますのでよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

(星野会長)

それではこれ以外に何かなければ、これで会議終了とさせていただきます。

進行にご協力いただきましてありがとうございます。次回はいろいろお願いしたこともございますので、それを基に議論をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(安西財政課長補佐)

委員の皆様お忙しい中どうもありがとうございました。以上をもちまして第1回成田市宿泊税に関する有識者懇談会を閉会させていただきます。

どうもありがとうございました

●閉会